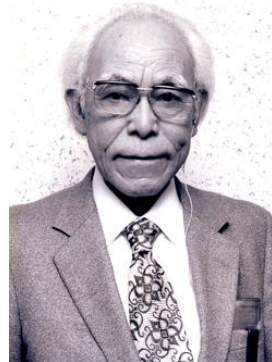


1904(明治 37 年)～1999(平成 11 年) 95 歳没

1. 経歴・狭山市とのかかわり

東京都文京区富坂に生まれ、少年時代より童話作家を志す。東京工学校卒業後、三菱商事などに勤務しながら作品を発表していたが、1945 年からは執筆活動に専念する。童話創作のかたわら童句を始める。1971 年、「環境が良く、知人がいる」との理由で狭山市に転居。95 歳で亡くなるまで狭山市で暮らす。



2. 主な業績

① 童話作家

生涯 150 冊以上の童話を発表した。代表作は戦争の悲惨さを描いた『かわいそうなぞう』である。本作は小学 2 年生の国語の教科書にも採用され、今も多くの人々に読まれ続けているロングセラーである。マレー半島を舞台に少年が活躍する冒険小説『虹の出帆』で文部大臣奨励賞を受賞。土家の自伝ともいえる長編『東京っ子物語』では、当時の東京山の手の文化や風俗人情を童話の形式で描き、野間児童文芸賞を受賞した。

② 童句の創始者

「童句」とは土家が創作した造語で「大人が失いかけた少年少女の純真な心を取り戻して詠む俳句」のことである。「戦後の日本人は物質主義になってしまい、心の修養が必要。そのために一番いいのは少年・少女の心になること」と考え、童謡や童話のように童句があってもよいのではないかと思い、一人で作り始めた。

③ 童句の普及

童句の作品集としては『おまつり』や『ぼくの四季』『除夜のかね』などが出版されている。1986 年、智光山公園の子ども動物園前に、5 つの代表作が刻まれた童句碑が建立された。それを契機に地元の人々が童句研究会を組織し、その後、童句づくりは全国的な広がりを見せている。



〈童句碑に刻まれた 5 句〉

- ・あらしって たこおろす空 雪となる
- ・トラックの 土に たんぽぽが 咲いて行く
- ・宿題の まどにときどき 遠花火
- ・雨に鳴く こおろぎにドア あけてやる
- ・ひなたぼこ しながら母に 髪刈らる

3. 特筆 ～平和を願い続けて～

「戦争中は靴を履いたまま仮眠。空襲警報が鳴り防空壕に避難すると、夕立のような音を立て焼夷弾が降ってくる」このような戦争体験を語る土家は、平和な世界を願い、人種差別や軍備をなくすことを訴え続けた。また、生涯現役を貫き、93 歳で『天使と戦争』という童話を発表した。